

科目名	基礎看護技術Ⅱ (日常生活の援助技術) Fundamental Nursing skills II		担当教員 (研究室番号)	川島 珠実 (202) 灘波 浩子 (203) 菅原 啓太 (204) 多久和有加 (208) 米川 さや香 (208)	教員への連絡方法 (メールアドレス)							
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目・実践基盤看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(60)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	対象者の生活上のニーズを満たすための看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の生活を、生理・心理・社会面からアセスメントするための視点を説明できる。 2. 対象者の生活行動を安全・安楽・自立に向けて援助するために必要な知識と技術を習得できる。 3. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。 											
成績評価方法 (基準)	筆記試験(50点)、課題レポート(30点)、ジグソー学習法の取り組み(20点)による総合評価を行う。なお、筆記試験60%以上であり、かつ総合点60点以上の評価であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と 基準等	単位認定の条件を満たさない者のうち、本人からの申請を担当教員が認めた場合、再試験を受けることができる。											
教科書	松尾ミヨ子他編：基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術，メディカ出版											
参考書等	ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯橋ます他訳：看護の基本となるもの(再新装版)，日本看護協会出版会 フロレンス・ナイチンゲール著，薄井坦子他訳：看護覚え書，現代社 その他、授業の中で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	<p>前期の基礎看護技術Ⅰに引き続き、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重し、その人に合わせた方法を追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須となり、講義・演習ではグループで基本的な看護技術から応用まで発展的に検討することを重視します。</p> <p>この科目では、全員がある技術の専門家になり、他の学生に教えたり、教えられたりする学習方法を取り入れます。専門家は、技術の流れや留意点、患者への配慮、その根拠等を自分の身体と言葉で説明できるように自己練習に励んでください。</p> <p>日常生活援助技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。授業では「その後は自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかむようにしましょう。そのためにも自分のスケジュールを調整して、予習・復習及び技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度を高めるよう取り組んでください。</p>											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一週間前までにWeb Classに授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や演習資料(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後片付けを行うため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。 											
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法			
1回	オリエンテーション			日常生活を整えることの意義について理解する。 ジグソー学習法の進め方について理解する。				川島	講義			
2回	身体の清潔を援助する技術①			清潔の意義を理解し、清潔のニードが満たされているかを判断する視点を学ぶ。				川島	講義			
3回	身体の清潔を援助する技術②			身体の部位に応じ、皮膚や粘膜などを清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。				川島 多久和	講義			
4回	身体の清潔を援助する技術③			身体の部位に応じ、皮膚や粘膜などを清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。				菅原 米川	講義			
5回	身体の清潔を援助する技術④			事例患者に合わせた身体の清潔を援助する技術やその根拠を考えるプロセスを経験する。				川島	講義			
6回	身体の清潔を援助する技術⑤			担当する課題について事前学習を行う。				川島、他	演習			
7回	衣生活を援助する技術①			衣生活の意義および衣服を整える意義と健康に影響を与える要因・アセスメントの視点を学ぶ。				米川	講義			
8回	衣生活を援助する技術②			臥床状態の対象者の和式寝衣を安全・安楽に交換する技術を学ぶ。				米川、他	演習			
9回	身体の清潔を援助する技術⑥ 専門家チームの活動①			教員から指導を受けながら、担当する課題について学ぶ。				川島、他	演習			
10回	身体の清潔を援助する技術⑦ 専門家チームの活動②			担当する課題の技術を習得する。				川島、他	演習			
11回	身体の清潔を援助する技術⑧ 専門家チームの活動③			担当する課題の技術を向上させ、留意点やポイントを整理する。				川島、他	演習			
12回	身体の清潔を援助する技術⑨ 専門家チームの活動④			担当する課題の技術および教授方法をチェックする。				川島、他	演習			
13回	身体の清潔を援助する技術⑩ ジグソーグループの活動			専門家の教授により、部分浴を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。				米川、他	演習			

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
14回	身体の清潔を援助する技術⑪ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、清拭を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	多久和、他	演習
15回	身体の清潔を援助する技術⑫ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、清拭を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	多久和、他	演習
16回	身体の清潔を援助する技術⑬ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、陰部洗浄を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
17回	身体の清潔を援助する技術⑭ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、洗髪を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	菅原、他	演習
18回	身体の清潔を援助する技術⑮ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、洗髪を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	菅原、他	演習
19回	食事・栄養摂取を促す技術①	食事・栄養のニーズを充足するための基礎的知識と栄養摂取法を選択する視点を学ぶ。	菅原	講義
20回	身体の清潔を援助する技術⑯	身体の部位に応じ、皮膚や粘膜などを清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。	菅原	講義
21回	体温を調節する技術	体温に異常をきたした対象者に対して、安全・安楽かつ効果的・効率的な魔法の援助方法を学ぶ。	灘波	講義
22回	排泄を促す技術Ⅰ①	排泄のアセスメントの視点や自然な排泄を援助する方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義
23回	食事・栄養摂取を促す技術②	自力で安全に食事摂取ができない対象者に対して、安全・安楽に食事介助を行う技術を学ぶ。	菅原、他	演習
24回	身体の清潔を援助する技術⑰	自力で口腔内の清潔が保てない対象者に対して、安全・安楽に口腔ケアを行う技術を学ぶ。	菅原、他	演習
25回	排泄を促す技術Ⅰ②	排泄障害のある対象者のアセスメントおよび排泄を整える援助方法とその根拠を学ぶ。	川島、他	講義
26回	排泄を促す技術Ⅰ③	臥床している対象者に対して、安全・安楽に排泄を介助する技術を学ぶ。	川島、他	講義
27回	排泄を促す技術Ⅰ④	排便を促す技術として、グリセリン浣腸の技術を学ぶ。	川島、他	演習
28回	総合演習①	これまでに学習した内容を活用しながら、事例対象者に必要な援助について、具体的な方法を含めてグループで検討する。	灘波、他	演習
29回	総合演習② 事例検討（机上）	これまでに学習したことを活用しながら、事例対象者に必要な援助をグループで検討する。	川島、他	演習
30回	総合演習③ 事例検討（実践）	総合演習②で検討した援助について、安全・安楽を踏まえた方法や留意点などをグループで検討する。	川島、他	演習

学 習 課 題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

- 1回目課題（事前・事後）： 資料を読み、学習方法・内容の概要を理解する。
- 2回目課題（事前・事後）： 教科書や資料を参考に、身体の清潔の意義やニーズを把握する視点を整理する。
- 3～5・20回目（事前）： 教科書や資料を参考に、身体の各部位を清潔にするための援助方法とその根拠を整理する。
- 3～5・20回目（事後）： 身体を清潔に保つ方法や留意点、根拠を整理する。
- 7～8回目課題（事前）： 教科書や資料を参考に、衣生活の意義や衣生活を整える方法を整理する。
- 7～8回目課題（事後）： 寝衣交換の自己練習を通して、自己の技術を評価する。
- 6・9～12回目課題（事前）： 教科書や資料を参考に、自分が担当する学習課題（援助）の流れや留意点、根拠を整理する。
- 6・9～12回目課題（事後）： 演習での学習を基に、自分が担当する学習課題（援助）の流れや留意点、根拠を整理する。
- 13～18回目課題（事後）： 各専門家からの教授や実施を踏まえ、各技術の流れや留意点、根拠を整理する。
- 19回目（事前・事後）： 教科書や資料を参考に、栄養状態や水分出納のアセスメントの方法を整理する。
- 21回目（事前）： 形態機能学の知識と教科書や資料を参考に、体温の異常が起こるメカニズムを調べる。
- 21回目（事後）： 体温の異常時の援助方法とその根拠を整理する。
- 22回目（事前）： 形態機能学の知識および教科書等を参考に、排泄のメカニズムを復習する。自己の排泄状況を観察・記録する。
- 23回目（事前・事後）： 安全・安楽に食事介助を行う方法や留意点・根拠を整理する。
- 24回目（事前・事後）： 安全・安楽に口腔ケアを行う方法や留意点・根拠を整理する。
- 25回目（事前）： 排泄援助の意義および方法について、教科書の該当箇所の内容を熟読しておく。
- 26・27回目（事前）： 教科書等を参考に、排泄障害の種類・特徴、グリセリン浣腸実施時の注意点を指定用紙に整理する。
- 26・27回目（事後）： 自己の体験をもとにおむつ装着のポイントや対象者の気持ちをレポートにまとめる。
- 28回目課題（事前）： 教科書や資料を参考に、事例対象者への援助方法を考える。
- 28回目課題（事後）： グループで検討した事例患者への援助方法を整理する。
- 29～30回目課題（事前）： 教科書や資料を参考に、これまで学習した知識・技術を復習する。
- 29～30回目課題（事後）： 授業で用いた技術について、その援助方法とその根拠について復習する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。